

大学コンソーシアムひょうご神戸
2024年度 第4回 FD・SD委員会
議事次第

日 時：2025年2月7日（金）持ち回り開催

回答期限：2025年2月13日（木）正午

委員校：甲南大学（委員長校）、神戸市看護大学（副委員長校）

芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、
神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭女子学院大学、
神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、
頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、
兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学

計 25 校

I. 審議事項

1. 2025年度 FD・SD委員会 事業計画・予算（案）について (資料1)

①加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開

②<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催>大学教育等に関する講演会等の開催

標記に関し、中村理事長から各事業委員会に、資料1-1のとおり依頼があった。参考資料1の理事会からの改善提案をもとに作成した、資料1-2「2025年度事業計画（鑑）案」および「予算案」について審議。

II. 連絡・調整事項

1. 2024年度 FD・SD委員会開催予定と主な議題について

第5回委員会：2024年度 事業報告・決算（案）について
オンラインにて3月実施予定

以上

<資料一覧>

資料1-1：2025年度事業計画・予算（案）及び2024年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

資料1-2：2025年度 FD・SD委員会事業計画・予算（案）

（参考資料1）2024年度 各事業委員会の事業計画における自己評価・改善提案について

【2025年度 FD・SD委員会 事業計画】(案)

委員長校	甲南大学
副委員長校	神戸市看護大学
委員校 (全:25校)	芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学 神戸国際大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学 頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部 兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学

中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標	
課題	課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開
達成目標	各年セミナー5件以上
活動指標	参加者数100人以上/年
取組2	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 大学教育等に関する講演会等の開催
達成目標	各年参加者数50名以上
活動指標	開催数:3回以上/年

目的

大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進

教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、関連な意見交換の場を創出する。

以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

予算額	課題⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進	
	取組1	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開
取組2	FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	440,000円

期待される効果
<p>1.加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開 通年を通して情報共有の仕組みを構築し、大学間で多様な研修プログラムを共有することにより、加盟校教職員の資質向上に寄与することが期待できる。</p> <p>2.FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める効果が期待できる。また、加盟校の担当者間での情報交換を通じて、大学間の人材交流の促進も期待できる。</p>

2025年度 FD・SD委員会 事業予算(案)

資料1-2

(単位：円)

	予算	各プログラム 予算				委員会 予算		
		取組1		取組2				
		加盟校が実施する FD・SDセミナーの公開		FD・SD情報交換会、 セミナー等の開催		内訳	予算額	
		内訳	予算額	内訳	予算額			
収入	会費収入	600,000		60,000		440,000		100,000
	助成事業収入	0						
	受託事業収入	0						
	プログラム収入	0						
	雑収入	0						
	戻入金	0						
	計	600,000		60,000		440,000		100,000
支出	会議費	40,000			情報交換会・懇親会	30,000	会議費	10,000
	旅費交通費	70,000			講師等交通費	60,000	旅費交通費	10,000
	通信運搬費	60,000			通信運搬費	30,000	通信運搬費	30,000
	消耗品費	19,000			消耗品費	10,000	消耗品費	9,000
	新聞図書費	0						
	印刷製本費	65,000			資料コピー代	65,000		
	光熱水料費	0						
	賃借料	30,000			会場費等	20,000	会場費等	10,000
	保険料	0						
	謝金	220,000			講師謝金等	220,000		
	租税公課	0						
	支払手数料	6,000			振込手数料	5,000	振込手数料	1,000
	諸会費	0						
	委託費	90,000	HP更新費等	60,000			各プログラムHP等に 係る予備費	30,000
	人件費	0						
	接待交際費	0						
	支払支援金	0						
雑費	0							
計	600,000		60,000		440,000		100,000	

収入－支出	0
-------	---

2024年度事業委員会への改善提案について

※達成目標は中長期計画立案時に、活動指標は各年事業計画立案時にそれぞれ策定

①国際交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	4	4	兵庫国際交流会館を拠点に、日本文化、就活、防災、ファミリーゼーションなどで、留学生を積極的に活動に取り込んでいることについては評価できる。留学生からのヒアリングを丁寧に継続するとともに、日本人学生との関わりもさらに補強してプログラム内容に盛り込むことを期待したい。また学生・留学生主体の企画にも引き続き重点をおき、さらなる内容と質が充実するよう、コーディネートを工夫することに期待する。留学生の日本定着を目指すにあたり日本人学生が果たす役割は大きい。英語が苦手な日本人学生にとっても留学生との交流は有益であるため、より視野の広いプログラム展開を期待したい。	①本プログラムへの参加を通して国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数 2500名以上/5年	①94.2% ②参加者数 5562名/3年	参加者数 500名以上/年	参加者数 1552名/年
事業報告②	<加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業> ・学生海外派遣プログラム ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	4	4	連携プログラム数の増加や新たな連携校（明石工業高等専門学校など）が増えているのは評価できる。今後もさらなる連携校を増やすべく、各大学の意見聴取を強化し、他大学の事情にあった連携プログラムを創出し、参加者の多様性の拡大を期待したい。	①本プログラムへの参加を通して国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数 10件以上/5年	①98.6% ②プログラム数 11件/3年	プログラム数 2件/年	プログラム件数 6件/年

②学生交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・地域子育て支援拠点・こどもの居場所でのボランティア等活動	2	2	加盟校ならびに行政が有する子育て支援施設や子どもの居場所と連携するボランティア活動は、学生のニーズもあり、支援体制を構築できている点は評価できる。また、外部資金を活用して交通費等、学生の経済的負担を軽減できている点も評価したい。ただし、学業との両立（学校からの移動距離・授業時間等との兼ね合い）において、一部学生の参加にとどまる傾向があるため、より多くの加盟校学生が参加しやすい事業内容についても検討いただきたい。		参加学生数のべ14名 （申込者28名・参加者11名）	参加団体5団体以上 個人参加15名以上	1団体2名参加 個人参加12名
事業報告②	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト・ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト	4	2	地元企業・協賛企業との連携プロジェクトとして3年目を迎え、新たに兵庫県が共催に加わるなど、プロジェクトの社会的価値が高まり、学生の地元企業理解や成長機会に本取組が寄与してきた実績を評価したい。同時に、次年度以降の継続については、連携先との協議の上、コンソ事業としてふさわしい関わり方を検討いただきたい。	参加学生数50名以上	参加学生数のべ82名 （参加者66名）	参加学生のチーム活動/月1回以上 （活動期間中）	月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告③	<テーマ型の学生交流プロジェクトの実施> WILL BE プロジェクト>③兵庫の魅力 Student Treasure Hunt Project ～2025年大阪 関西万博に向けて～兵庫県「ひょうごフィールドバビリオン」との連携～	4	3	加盟校の学生たちが元気になる学生交流活動として、2025年「大阪・関西万博」と連動して、当初計画通り、2か年にわたり、単なるお祭りの交流活動にとどまらず、地域課題の解決も視野に入れて、兵庫の魅力を発見・発信する学生の活動そのものが、兵庫県の魅力向上に寄与した点は評価したい。今後も、加盟校の学生が地域で活躍する姿を国内外に発信機会があれば、取り組んでいただきたい。		参加学生数のべ61名 （参加者30名）		月1回以上、参加学生のチーム活動を開催した
事業報告④	<学生発信ブランディング> 加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報の実施	2	3	コンソHP上に「地域で輝く学生」と題して、各加盟校の特長ある地域活動を通じて、学生が地域に貢献する姿をわかりやすく伝え、コンソーシアム加盟校全体の認知度が高まる活動は重要である。次年度も引き続き、広報活動の活発化に取り組んでいただきたい。	情報公開数200取組以上	74取組/3年	各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年	21取組（年内40取組掲載予定）/年
事業報告⑤	<学生発信ブランディング> 若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」	3	4	阪神・淡路大震災を経験したコンソーシアムとして、震災を知らない世代の加盟校学生たちが兵庫県の防災啓発動画を作成する本取組は、意義深い活動であると評価できる。次年度は、SNSを活用した情報発信活動の実施、また全国コンソーシアム研究交流フォーラムにて、加盟校での各取組と共に、オールひょうごとして防災・減災への意識向上に向けて発信いただきたい。	参加加盟校数10校以上/年	加盟校参加数 6校	参加団体1団体以上 個人参加20名以上	個人参加11名

③教育連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	単位互換事業の実施	4	4	教育のICT化や共同開講など、学生への多様な学びの機会の提供について引き続き検討頂きたい。また、興味のある学生に情報が届くよう単位互換制度の認知度向上に向けて、広報について改めて検討頂きたい。	各年開放科目数10科目以上	128科目（18校）/年	送り出し校数・5校/年	11校（61名）/年 ※対面52名、オンデマンド9名
事業報告②	多様な学修機会の提供	4	4	継続的な加盟校の教育資源の共有と相互連携の取組として、加盟校の公開講座を対面実施以外にもオンライン実施も含めて広く開放し、多様な学生の交流を促進し、学修経験の強化を引き続き図って頂きたい。eラーニングシステムについても、コロナ禍以後、オンライン学修やリメディアル教育など多様なニーズが生まれている。引き続き加盟校に周知を行い、加盟校全体のICTを活用した教育資源向上に期待している。	各年プログラム数5件以上	17件（7校）/年	参加者数50名以上/年	参加者数 1684名/年

④キャリア委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績	
事業報告①	大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	2	4	企業と大学をつなげ、教職員とコンソーシアムの関係を深めた点や、教職員に企業や法律家など、多角的な視点での情報提供ができたのは評価できる。加盟校を卒業した「先輩」が、県内企業に入社したきっかけを語る「先輩インタビュー」は、学生に地元就職を意識させる点で有効といえ、継続いただきたい。1～3月のキャリアイベント集客にも届結するが、次年度以降は、就職活動中の学生に発信内容を届ける一層の取組に期待したい。		①兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 2500名（学生数2250名以上、教職員数250名以上）以上/5年	①88.3% ②参加者数 1598名/3年 （学生1192名、教職員406名）	各年参加者数 500名以上（学生数450名以上、教職員数50名以上） ※事業報告①、②の合計	参加者数 156名/年 （学生64名・教職員92名）
事業報告②	「尼崎市」大学生等向け職場体験事業	4	4	尼崎市内企業への理解を深めた点、参加学生の満足度が非常に高かった点、自治体との連携が深まった点は評価できる。次年度は、自治体や企業ニーズをさらに踏まえ、日本人だけでなく、留学生も対象にした尼崎市内の職場体験事業も進めていきたい。当事業で得たノウハウを他の自治体に広めたり、コンソ事業に取り入れたりするなど、兵庫県全域のコンソとしてのプレゼンスの向上に繋げることを期待する。			参加者数15名以上（事業報告①の達成目標・各年参加者数 500名以上（学生数450名以上、教職員数50名以上）を含む）	参加者数 87名/年 （学生64名・教職員23名）	
事業報告③	県内企業・団体等の魅力を情報発信	3	4	「WLB認定企業・表彰企業」「兵庫型奨学金返済支援制度導入企業」等、客観的な指標を一元化して掲載することにより、企業の比較や、企業研究の手助けになる点を評価したい。「兵庫型奨学金返済支援制度」については、産業界、自治体が地元就職促進を目的に始まった取り組みであり、学生に周知させることは意義深い。	情報公開企業・団体数120社以上	153社	企業情報の追加掲載 2種類以上	追加情報掲載 2種類	
事業報告④	留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム	4	4	留学生61名が参加の「ひょうご留学生インターンシップ」や、日本人学生と外国人留学生在がペア形式で参加した「国際交流機関リレーインターンシップ」により、多国難環境下での就業体験を提供した点は評価できる。一方で、県内での留学生の就職者数が増加する中、早期離職が課題となっている。留学生が自身のアイデンティティを活かした就職・定着を目指すこと、また、外国人の職場定着に貢献できる日本人学生を育成することも視野に入れた事業展開を期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加留学生数 2500名以上	①100% ②参加留学生数 2944名/3年	参加留学生数 500名以上	参加留学生数 774名/年	
事業報告⑤	外国人留学生採用ワンストップ支援事業	4	4	ひょうご留学生留学生インターンシップ参加学生の継続的な支援の場として機能していること、個々の留学生の特性に合わせた丁寧な支援により、内定者が出ていること、留学生の就職に繋がる関係機関とより実質的な連携が出来ていることは、評価できる。今後も、個々の留学生への丁寧な支援、企業の潜在的ニーズに繋がる丁寧なヒアリングと、多角的な視点での連携先の開拓や関係強化により、留学生の県内企業定着を促進することを期待する。	①日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合70%以上 ②参加者数 250名以上	①80% ②参加者数 214名/3年	参加者数 50名以上	参加者数 74名/年	

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき

⑤ 高大連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	大学と高等学校の意見交換会の実施「ひょうご高校大学コンソーシアム」	4	4	兵庫県下の大学と高校の連携・接続に関する課題の共有、およびその課題について意見交換が継続的に行われている点については評価できる。引き続き、兵庫県下の高大連携を深め、人材育成の取組促進・人的ネットワークの構築を図るための活動を推進してほしい。	各年参加校数20校以上	参加校数 22校/年	意見交換会等の実施/年1回以上	意見交換会を1回実施
事業報告②	加盟校の魅力情報を発信	3	4	コンソHPでの情報発信や、県下の高等学校への情報共有など高大連携に関する情報を提供している点については評価できる。今後も継続して、オンラインはもちろん説明会やパンフレットなどのオフラインも併用しながら、高校の教職員・高校生・保護者への、加盟校の情報を発信していただきたい。	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上	情報提供先数 200か所以上/年 (兵庫県立学校長協会・県下高等学校への情報提供)	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上	コンソHPへの情報掲載1回

⑥ FD・SD委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	4	4	加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開について、コンソーシアム内で情報共有の仕組みを構築し、通年を通して加盟校教職員の受講機会を提供し、教職員の資質向上に寄与できている点は評価できる。今後も継続的に加盟校のニーズを踏まえたFD・SDへの取組を進めていただきたい。	各年セミナー5件以上	9件(10校)のFD・SDセミナーを公開/年	参加者数 100人以上/年	参加者数 758人/年
事業報告②	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした大学教育等に関する講演会等の開催	3	4	加盟校に共通する大学教育が直面する喫緊の課題について、加盟校のニーズを踏まえたセミナーに取り組んでいることは評価できる。FD・SD共通化への施策の検討を含めて、大学が単独で行うよりもコンソーシアムで実施する意義がある活動を推進いただきたい。	各年参加者数50名以上	参加者数 148名/年	開催数 3回以上/年	開催数 1回/年
事業報告③	<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催> 加盟校教職員を対象とした内部質保証システム等に関するFD・SDセミナー等の開催	4	4	近年、重視されている認証評価・IRなどについて、体制作りから実質化まで苦慮されている加盟校の現状を踏まえたセミナーを継続的に実施できた点は評価できる。今後も加盟校のニーズを柔軟にとらえ、時宜にあった取組を検討いただきたい。		参加者数 149名/年		開催数 2回(実施予定含む)/年

⑦ 企画運営委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・リカレント教育の普及促進に向けた取組 ・加盟校のリカレント教育に関する情報発信	3	4	兵庫県からも県内大学におけるリカレント教育の取組促進、機運の醸成がコンソに対して期待される中で、本取組を継続できていることは評価できる。引き続き、先進事例や課題を共有し、加盟校が連携してリカレント教育の普及に寄与いただきたい。	①各年参加者数50名以上 ②各年10校以上	①2025年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定。参加者数は現時点未定 ②28校/年	大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①2024年3月5日「リカレントフォーラム」開催予定(1回)
事業報告②	・大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築 ・緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築	4	4	企画運営委員会及び、ひょうご産官学連携協議会等での懇談については、次年度以降も定期的に実施し、産官学の連携体制の強化について、意見交換の場を設けていただきたい。次年度開催の全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムに向けては、加盟校自身がコンソ活動への理解を深め、所属意識を高めながら、コンソ活動ならびに加盟校活動を他エリアのコンソ・大学に周知できる場をつくり出すことに期待している。また緊急時リスクマネジメント体制の構築については、定期的な見直し・改善を行い、より実践的な関係性構築に向け検討を重ねていただきたい。	①大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ②緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	①企画運営委員会、産官学連携協議会、産業界との協議・意見交換及び、企業課題解決プログラムの実施等により地方自治体・企業・地域団体との更なる連携を拡充した ②「リスクに関する情報連絡会」を開催、緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築した	①大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上) ②大学・企業関係者による講演・意見交換会(年1回以上)	①企画運営委員会(原則月1回開催): 8回実施済(年度内計12回実施予定) 産官学連携協議会:1回実施済 (年度内計2回実施予定) 産業界との意見交換会:1回実施済 (年度内計2回実施予定) ②リスクに関する情報交換会:1回実施済 (11月末時点)
事業報告③	加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	4	4	事務局運営の効率化・プロセスの可視化・情報管理や共有に関しては、継続的な評価と改善を行い、最適な効率化を図る必要があるため、継続して取り組んでいただきたい。アンケート等で導き出された課題(コンソの認知度や関心)については適宜、企画運営委員会や各事業委員会等で協議しながら、各取り組みがよりよいものになるよう活かしていただきたい。また各ワーキングでの課題(全国コンソ、会費、リスクマネジメント・リカレント)について、導き出された解決策を具体的に運用することで、次年度以降のさらなる事業活性化・安定的な運営体制の構築を図っていただきたい。	加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築	コンソHPを活用し加盟校へ情報共有を行った。新たな取り組みとして「加盟校で働く教職員の方へ」のウェブページを新設し、各大学の教職員募集情報の一元化を実施した。 また企画運営委員会にてWGを設置、課題解決に向け議論を深めた。	企画運営委員会等における懇談の実施(年10回以上)	企画運営委員会(原則月1回開催): 8回実施済(年度内計12回実施予定) (11月末時点)

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき